

おもちゃ花火の事故を防ごう

いよいよ夏本番。子どもも大人も楽しめる夏の風物詩といえば「おもちゃ花火」です。

しかし、この楽しい花火も、その原料は危険な「火薬」ということを忘れてはいけません。誤った場所での使用や間違った取り扱いで、火災やケガが発生する恐れがあります。

楽しい花火を悲しい思い出にしないために、今月は「おもちゃ花火」の取り扱いについて、お話しします。

◎実際に起こった花火の事故

事例① 誤った場所での使用による火災

打ち上げられたロケット花火に火種が残っている状態で、建物に落下。落ちた場所が、外周部にはがれ落ちていた外壁塗装材の上だったため、着火し、出火した。

事例② 間違った取り扱いによる視力低下

打ち上げ花火を噴出花火と間違え、導火線に点火。のぞき込んでいると左目に花火が直撃し、視力が低下した。



事例③ 間違った取り扱いによる骨折

花火を分解し、火薬と鉛玉を容器に入れていじっていたところ爆発。親指の付け根を骨折した。

◎花火を安全に楽しむための10のルール

1. 説明書をよく読んで、注意事項を必ず守りましょう。
2. 花火を人や家に向けたり、燃えやすいものの近くで行ったりするのはやめましょう。
3. 風が強いときはやめましょう。
4. 水の入ったバケツを用意しましょう。
5. 遊び終わった花火は必ずバケツの水につけて、残り火を完全に消しましょう。
6. 子どもたちだけでなく、大人と一緒に遊びましょう。
7. 一度にたくさんの花火に、火をつけないようにしましょう。
8. 正しい位置に、正しい方法で点火しましょう。
9. 吹き出し、打ち上げなどの筒もの花火は、途中で火が消えても筒をのぞかないようにしましょう。
10. 花火をほぐして遊ぶことはやめましょう。

◎ルールを守りましょう

子どもたちの好奇心や行動力は、大人の想像をはるかに超えることが多くあります。さらに、大人でも間違った使用方法により、火災や大ケガが毎年発生しています。上の10のルールに従って正しく遊び、楽しい夏の思い出をつくってください。

